

## 2020年度のベンチャービジネス研究所の活動を振り返って

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所 経営学部教授 村上 喜郁

2020年度より追手門学院大学ベンチャービジネス研究所所長に就任いたしました村上喜郁です。2020年は、世界的な新型コロナウイルス（COVID-19）の感染爆発により、おそらく今後の歴史に語り継がれるであろうエポックな年となりました。はじめに、新型コロナウイルスに倒れられた方々に哀悼の意を表しお悔やみ申し上げますとともに、最前線で感染と戦う医療従事者の皆様に謝意を示したいと思えます。

さて、我々ベンチャービジネス研究所が研究の対象としております「ビジネスの世界」に目を向けると、「緊急事態宣言」等の影響により観光や飲食業界などサービス産業には大きな打撃を与えられています。また、感染拡大防止の観点から、いわゆる「働き方改革」が加速し、時差出勤やテレワークなどが多くの企業において広がっています。しかしながら、結果として、体力の弱い中小の事業者は、非常に厳しい状況に立たされているのが現状です。コロナ後の日本経済を考えると、これは由々しき問題だと言わざるを得ません。

新型コロナウイルス蔓延の問題は、もちろん教育業界にも大きな影響を与えています。4月7日に7都府県に発出された「緊急事態宣言」により、都市部の多くの大学では授業が開講できない状況が続きました。そのような状況の中において、当学追手門学院大学では、従前より活用を進めておりましたLMS（学習管理システム）、総持寺 新キャンパスと共に稼動した（学生各々が自分の情報端末を持つ）BYODに加え、遠隔会議システムを活用した形で、4月当初より授業を通常通り開始いたしました。また、学修を止めないという大学の方針のもと、当研究所においても、7月23日には「第7回 追手門グッツプランコンテスト」、12月10日には「第11回 追手門大学生ビジネスプランコンテスト」をそれぞれリモート開催し、多くの学生から参加をいただきました。加えて、10月から11月にかけて4回の学生研究会セミナーを実施

し、研究会の参加学生から日本最大の学生ビジネスプランコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）」の大阪大会において、「中小企業基盤整備機構 近畿本部長賞」受賞者を輩出することが出来ました。これも、研究所所属の所員、また関係各所のご協力のたまものであると感謝しております。

さらに、教育に関わる社会連携活動といたしましては、北おおさか信用金庫と株式会社サイネックスと提携し、北摂地域の活性化を目的に主に情報発信などに取り組む学生プロジェクトとして「ほくせつ探検大学」を進めてまいりました。8月には担当者を宮崎崇将所員に交代し、心機一転、Redhorse OSAKA WHEELとのコラボ企画「みる！きく！楽しむ！オオサカスカイランド」、「北摂キャラクター総選挙」、北おおさか信用金庫主催「きたしんマッチングモール」にて「ほくせつ探検食マッチング」等のイベント・情報発信を実施いたしました。

研究活動におきましては、2019年度および2020年度に、当研究所と株式会社サイネックスとの共同研究として進めた「元気ビジネス調査・研究」プロジェクトの研究結果として、2021年3月に『北大阪の元気な中小・中堅企業2021』を刊行する運びとなりました。調査・執筆にあたってくださった所員の先生方、特にプロジェクトリーダーを務めていただきました石盛真徳所員とご助力をいただきました北おおさか信用金庫、株式会社サイネックスには、改めましてお礼申し上げます。

最後に、新型コロナウイルスの終息の状況が見えない状況にはございますが、経営環境の大きな変化は、新規ビジネス、ベンチャービジネスにとっては「胎動」の機会と捉えることも出来ます。追手門学院大学ベンチャービジネス研究所も、「ベンチャービジネス研究」と「地域企業・自治体との連携」に一層尽力したいと考えております。関係の皆様におかれましては、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

# Newsletter

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

## 第11回追大学生ビジネスプランコンテスト〈感想〉

審査員 地域創造学部 准教授 佐藤 敦信 (ベンチャービジネス研究所所員)

今回初めてビジネスプランコンテストの審査員を担当し、学生たちのビジネスプランを楽しく聞かせていただきました。どのグループのプランも常に化する社会的需要に基づいていて、日々の学びで形成された問題意識を起点とした素晴らしいものでした。また、今回はWeb会議システムでの発表になり、参加した学生たちも少なからず戸惑いや違和感がある中で、精一杯自分たちの考えや思いを伝えるべく努力していたのではないのでしょうか。そうした姿勢も大いに評価されるべきものです。

その上で、気になった点を1点述べたいと思います。どのグループもそれぞれのプランの実現可能性について根拠を含めて述べてくれました。発表の中には、コスト等の試算もあり、一定の説得力が感じられました。しかし、実現した場合に人々はどの程度そのビジネスを歓迎するのかという観点から、さらに内容を深めてもよかったのではないかという印象をもちました。書籍やイン

ターネットの記事、テレビ等、様々な情報媒体がありますが、是非、実際に必要としてと思われる多くの人たちの声を直接聞いてみてください。もちろんそうした人々へのインタビューまたはアンケートというのは、準備のための時間が限られ、特に今年度のように行動も制限される中では容易なことではありません。しかし、このような調査は対面に限らず、インターネット、とりわけ今回のようなWeb会議システムでも実施することができます。このプロセスを含めることで、多くの時間をかけて考えたプランが、単に自分たちの思い込みによるものではなく、実際にこのプランを欲している人が多くいるという、より説得力のあるものになるはずですよ。

この他にも、参加学生にはそれぞれ大なり小なり反省点が残ったと思います。学生たちは、今後も多くの発表を経験していくはずなので、各自の反省点を踏まえ、次回以降、さらに質の高い発表をすることを期待しています。

## 第11回追大学生ビジネスプランコンテストについての心理学的一考察

審査員 経営学部 准教授 長岡 千賀 (ベンチャービジネス研究所所員)

まずは、以下のクイズに取り組んでみてください。

ドクター・スミスは、アメリカのコロラド州立病院に勤務する腕利きの外科医。仕事では、常に冷静沈着、大胆かつ細心で、州知事にまで信望が厚い。ドクター・スミスが夜勤をしていたある日、緊急外来の電話が鳴った。交通事故の怪我人を搬送するので執刀してほしいという。父親が息子と一緒にドライブ中、道路から谷へ転落し、車は大破、父親は即死、子どもは重体だと救急隊員は告げた。20分後、重体の子どもが病院に運び込まれてきた。その顔を見て、ドクター・スミスはあっと叫び、そのまま茫然自失となった。その子は、ドクター・スミスの息子だったのだ。

**問題：**交通事故に遭った父子とドクター・スミスの関係は？

難しく感じる場合は、ぜひ3分ほど考えてみてください。

皆さんの中には、複雑に考え込んでしまった人もいらっしゃるでしょう。「別れた妻の現在の夫と、自分の子」、「不倫相手の夫と、不倫相手との間に生まれた子」とい

う回答を考えた人もいらっしゃるでしょう。

しかし、最もシンプルな答えは、夫と息子です。つまり、ドクター・スミスは女性です。

ドクター・スミスは女性であると言われて、ハッとした方もいらっしゃるでしょう。私たちは、職業などによって人について思い込みをする癖があります。上のクイズでは、「外科医」から、ドクター・スミスは男性だと思いきや、こんでしまう人が多いのです。こうした思い込みをステレオタイプと呼びます。

ステレオタイプを持つことは悪いことではありません。これが無意識のうちに知識の一要素として働くからこそ、日常生活をスムーズに過ごせているところもあります。マーケティングのある部分では、ステレオタイプを利用することが有効に働くこともあります。

しかし、新しくビジネスプランを考える際にこれにとらわれると、うまく行かないこともあると考えられます。今回は「働く女性」がテーマの1つでした。ステレオタイプから離れてみることで、新しい発想を得るチャンスだったように思いました。

# 第7回 追手門 グッズコンテスト

オンライン開催

募集期間 2020年 5/11[月] ▶ 6/11[木]

採用されれば、  
グッズ化の可能性あり!

アイディア募集中!

募集内容

部門1: 新型コロナウイルスの蔓延によって起こる諸問題を解決するグッズ  
部門2: 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

応募資格 追手門学院の大学生および大阪府内の高校に通う高校生

賞(副賞)

- 最優秀賞 (QUOカード2万円分 全体より1組)
- 優秀賞 (QUOカード1万円分 各部門1組)
- 奨励賞 (QUOカード5千円分 各部門3組)

主催 追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

2019年度の商品化グッズ! ブックストッパー

# 第7回 追手門 グッズコンテスト

募集方法とスケジュール

5/11[月] ~ 6/11[木]

○第1次審査(受付期間)  
提出された専用の応募用紙を基に審査を行います。

6月 下旬

○第1次審査結果報告  
審査を通過した学生には6月下旬までに連絡します。(CAMPASSQUAREにメール配信します。)

7/23[木] 15:00~

○第2次審査  
事前に作成してもらったプレゼンテーション動画と、オンライン会議システムを使って行う質疑応答を基に審査します。発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

○募集内容とグッズのテーマ

部門1: 新型コロナウイルスの蔓延によって起こる諸問題を解決するグッズ  
部門2: 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

審査基準 / 第1次審査: グッズアイデア (有用性・宣伝効果・実現可能性)  
第2次審査: 第1次審査からの改善・発展度合、プレゼンテーション能力

審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有識者の中から審査委員を選出して審査します。

○応募方法

CAMPASSQUAREのお知らせに掲載している「第7回追手門グッズコンテストのお知らせ」から専用の「応募ファイル」をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記の提出先に必要事項を記入の上、応募ファイルを添付して送信してください。

[応募ファイルの提出先・提出期限・問合せ先(質問・相談)]  
提出先: <https://ws.formzu.net/dist/S92870568/> (各項目を記入し、応募用紙のファイルを添付してください)  
提出期限: 2020年6月11日(木) 23時59分  
質問・相談: [mihayama@otemon.ac.jp](mailto:mihayama@otemon.ac.jp) (地域創造学部 葉山)

○賞(副賞)

最優秀賞 (QUOカード2万円分 全体より1組)、優秀賞 (QUOカード1万円分 各部門1組)、奨励賞 (QUOカード5千円分 各部門3組)

○その他の注意事項

- 応募されたアイデアの知的所有権は追手門学院大学に帰属します。(アイデアをグッズとして制作する可能性があります。)
- 受賞したグッズアイデアは、応募者に了承を得て、概要を公表します。
- 審査結果の発表後、盗作や虚偽の内容等が判明した場合は受賞失格となります。
- その他、応募に関して、何か不明な点があれば、上記の問合せ先まで、遠慮なく質問してください。

# フジテック杯 第11回 追大 学生ビジネスプラン コンテスト

オンライン開催

募集テーマ

一般部門 特別部門

働く女性のための子育て問題  
社会に役立つビジネスプラン・アイデア

応募期間(1次審査)  
2020 9/10[木] ~ 10/31[土]

ビジネスプラン発表会(2次審査)  
2020 12/10[木] 午後(予定)

応募資格

近畿2府5県圏内の高校、  
(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・三重県・滋賀県・和歌山県)  
大阪府下の大学・大学院に通う学生

個人3人組グループ  
ただし、大学生・大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、  
1名以上の追手門学院大学学生を含むグループ。

賞と副賞(予定)

- 最優秀賞 QUOカード 5万円分 1組
- フジテック特別賞 QUOカード 3万円分 1組
- 優秀賞 QUOカード 3万円分 4組
- 奨励賞 QUOカード 1万円分 6組
- 高校生取組賞 図書カード 1万円分 1組

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

協賛 フジテック株式会社

主催 追手門学院大学

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所  
(研究棟6階603 研究所事務室)  
住所 〒567-8502 大阪府茨木市西成2-1-15  
TEL 072-641-7374 / FAX 072-643-9597  
Email [info\\_vbk@otemon.ac.jp](mailto:info_vbk@otemon.ac.jp)

応募の詳細はこちら

# フジテック杯 第11回 追大 学生ビジネスプランコンテスト

募集要項

●趣旨

本学の教育理念(目的)は「独立自営・社会奉為」です。その実践事業の一つとして、ベンチャービジネス研究所では、学生による「ビジネスプランの作成と発表」の場を設けます。これによって起業家マインドの醸成と起業の正しいあり方への関心が高まることを期待します。

●募集テーマ

特別部門: “働く女性のための子育て問題”  
一般部門: ニーズがあるもののこれまで供給がなかった、“社会に役立つビジネスプラン・アイデア”

●審査方法とスケジュール

(1) 第1次審査: 9月10日(木) ~ 10月31日(土)の間に提出された書類を基に審査を行います。  
※審査結果は11月中旬にメール・大学HPで通知します。※追手門学院大学の学生にはCAMPASSQUAREに通知・メール配信します。

(2) 第2次審査: 12月10日(木) 午後 [オンライン開催] (予定) ※詳細は追って告知します。  
・オンライン会議システムを利用して発表会を実施します。  
・事前に作成してもらったパワーポイントやプレゼンテーション動画など、オンライン会議システムを使って行う質疑応答を基に審査します。  
・発表会と2次審査の後、結果発表と表彰をオンライン上で行います。

審査基準 / プラン・アイデアのオリジナル性・市場性・実現可能性・社会貢献性、及び、プレゼンテーション能力。  
審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有識者の中から審査委員会を設けて審査します。

●応募方法・提出先

① 下記のホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入  
[ベンチャービジネス研究所HP](https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/) <https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/>

② 応募フォームに申込書を添付して申込み 募集期間: 2020年9月10日(木) ~ 2020年10月31日(土) 必着  
コンテスト応募フォームURL <https://ws.formzu.net/dist/S16204150/>

※ 申込書に添付できる容量は6MBまでです。  
※ 応募後すぐに返送される「応募申込書を受け付けた」というメールが30分以内に届かない場合は、下記お問い合わせ先まで緊急ご連絡ください(メール推奨)。  
※ 電話やFAX、ペーパーでの応募は一切受け付けません。 ※ プラン・アイデア1つにつき応募申込書1部が必要です。

●応募資格

近畿2府5県(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・三重県・滋賀県・和歌山県) 圏内の高校、大阪府下の大学・大学院に通う学生個人またはグループ。ただし、大学生・大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、1名以上の追手門学院大学学生を含むグループ。プラン・アイデアの内容が真に役立つもので何でも応募することができます。

●賞と副賞(予定)

- 最優秀賞 (QUOカード5万円分1組) / フジテック特別賞 (QUOカード3万円分1組) / 優秀賞 (QUOカード3万円分4組)
- 奨励賞 (QUOカード1万円分6組) / 高校生取組賞 (図書カード1万円分1組) ※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

●その他の注意事項

- 応募プランの知的所有権は応募者に帰属します。受賞したプランは、応募者に了解を得て、概要を公表します。
- 審査結果の発表後、盗作や虚偽の事実等が判明した場合は失格となります。応募にあたっては知的財産権等について、第三者の権利の侵害、その他の問題が生じないよう、十分に注意してください。
- その他、応募に関して不明な点がありましたら、下記問合せ先までお問い合わせください。

●お問い合わせ先

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所(研究棟6階603 研究所事務室)  
住所 〒567-8502 大阪府茨木市西成2-1-15  
TEL 072-641-7374 / FAX 072-643-9597 / Email [info\\_vbk@otemon.ac.jp](mailto:info_vbk@otemon.ac.jp)

ベンチャービジネス研究所主催  
第7回追手門学院グッズコンテスト 最終審査結果発表表

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| <b>最優秀賞</b> (副賞:クオカード2万円分)  |   |
| グループ名                       | メンバー<br>グッズ名                                  |
| マスクメロン<br>(追手門部門)           | 飯野康晴・三木彩加・廣岡美咲・久村一磨<br>マスクケース                 |
| <b>優秀賞</b> (副賞:クオカード1万円分)   |   |
| KKN<br>(コロナ部門)              | 中本貴文・金本誉己・小玉亜海・小川由<br>巻き取り式レジカゴ<br>エコバッグ      |
| Blue Apple<br>(追手門部門)       | 足立陸斗・タティ ウイナタ<br>江見知敏・大西京汰<br>3Wayペンスタンド      |
| <b>奨励賞</b> (副賞:クオカード5千円分)   |   |
| マスクメン<br>(コロナ部門)            | 金本誉己・中本貴文・小玉亜海・小川由<br>着脱式冷感ジェルマ<br>スク         |
| Q4<br>(コロナ部門)               | 万田健太・橋本心愛・西島朝香・小倉怜寿<br>間接キス防止シリコン             |
| 追手門ASV<br>(追手門部門)           | 荒木七海・齊田哲也・ヴォティ ビッグバン<br>1枚でストレス解消!<br>多機能ひざ掛け |
| <b>動画賞</b> (副賞:クオカード5千円分)   |   |
| げこげこかえるーず<br>(コロナ部門)        | 中野悠輔・太田裕麻・今井美有<br>作って壊せ!秘密基地                  |
| KKN<br>(コロナ部門)              | 中本貴文・金本誉己<br>小玉亜海・小川由<br>巻き取り式レジカゴ<br>エコバッグ   |
| <b>質疑応答賞</b> (副賞:クオカード5千円分) |   |
| KKN<br>(コロナ部門)              | 中本貴文・金本誉己・小玉亜海・小川由<br>巻き取り式レジカゴ<br>エコバッグ      |
| <b>アプリー賞</b> (副賞:クオカード1万円分) |   |
| カロラー<br>(コロナ部門)             | 比嘉歩・櫻井萌里・笹倉舞奈・小林雄貴<br>ヘルスバンド                  |

ベンチャービジネス研究所主催  
フジテック杯 第11回追手門学生ビジネスプランコンテスト  
最終審査結果発表表  
2020.12.10開催

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <b>最優秀賞</b> (副賞:QUOカード5万円分)   |   |
| グループ名                         | メンバー<br>ビジネスプラン名  |
| チームエコロジカル<br>(一般部門)           | 北尾妃海果・人見和希・桑名優希花庄<br>司和加・田中美鈴<br>アドバット<br>~エコバッグ専門の広告代理店~   |
| <b>フジテック賞</b> (副賞:QUOカード3万円分) |   |
| あつまれ支援者の森<br>(特別部門)           | 林樹梨・永田紘諒・平侑樹<br>江見知敏・久村一磨<br>クラウドファンディング型親子<br>支援ビジネス       |
| <b>優秀賞</b> (副賞:QUOカード3万円分)    |   |
| あつまれ支援者の森<br>(特別部門)           | 林樹梨・永田紘諒・平侑樹<br>江見知敏・久村一磨<br>クラウドファンディング型親子<br>支援ビジネス       |
| 三犬香水<br>(一般部門)                | 近藤里美花・中村紗弥香<br>武田絵梨花<br>セルフ・リフォーム                           |
| なすB<br>(一般部門)                 | 小川由・万田健太・増井輝<br>森美月・向井章悟・井上紗也香<br>セミプロ商品を世界へ<br>発信するサービス    |
| ほんわか<br>(一般部門)                | 増田勝吾・田中あゆこ・塩谷和真<br>藤井夕己・越智美耶妃・小倉怜寿<br>メンタルヘルス向上<br>ビューティサロン |
| <b>奨励賞</b> (副賞:QUOカード1万円分)    |   |
| TOCHIO☆CHILDREN<br>(一般部門)     | 川瀬拓真・西野隆輝<br>Pi-Po- お薬手帳アプリ                                 |
| おやこあい<br>(特別部門)               | 西田健人・小玉亜海・栗原一輝<br>比嘉歩・吉仲昇平・河森優花<br>育児知識が乏しい男性に向け<br>た育児セミナー |
| レスキューマン<br>(特別部門)             | 庄司和加・田中美鈴・北尾妃海果<br>桑名優希花・人見和希<br>大学生によるPTA代行サービ<br>ス        |
| おかずクラブ<br>(特別部門)              | 上田光莉・桑原怜・森元崇流<br>荒木七海・野原颯太・宮城菜緒<br>100人100色弁当               |
| <b>質疑応答賞</b> (副賞:QUOカード1万円分)  |   |
| サティスファクトリー<br>(一般部門)          | 田中あゆこ・塩谷和真・藤井夕己<br>増田勝吾・越智美耶妃・小倉怜寿<br>持続可能な生ゴミ再生<br>プロジェクト  |
| <b>動画賞</b> (副賞:QUOカード1万円分)    |   |
| ばお〜ん<br>(一般部門)                | 入江一慶・栗山聖希・西谷海生<br>歩く広告になるニダ〜                                |

☆協賛のフジテック株式会社さまより、オリジナルのステンレスボトルをご提供いただきました!  
上位入賞チームの副賞として贈呈いたします。

## フジテック杯 第11回追大 学生ビジネスプランコンテスト 最優秀賞 チームエコロジカル「アドバッグ ～エコバッグ専門の広告代理店～」

代表 北尾 妃海果（経営学部2年）

私たちは、「第11回追大 学生ビジネスプランコンテスト」で、「チームエコロジカル」として最優秀賞を受賞させていただきました。

そのビジネスプランを完成させる過程で、アイデアの考案から収支予測と細かな部分までアイデアを練ることの大変さを非常に実感いたしました。プレゼンテーションを行うにあたって相手に伝わりやすいパワーポイントを作成したり、説得力のある説明をすることはもちろんです。また、質疑応答で審査員の方を納得させるような適切なデータを事前に準備しておくことの重要性も学びました。

研究会では、自分たちのビジネスプランを発表しブラッシュアップを何度も行いました。他のチームが発表している際も、自分なりに改善点を見つけ、自分たちのプランに照らし合わせて確認いたしました。そうすることで、見えていなかったものが見えるようになり、自分たちの成長につながりました。受賞に至るまでに、他にも様々な学びや気づきがありました。

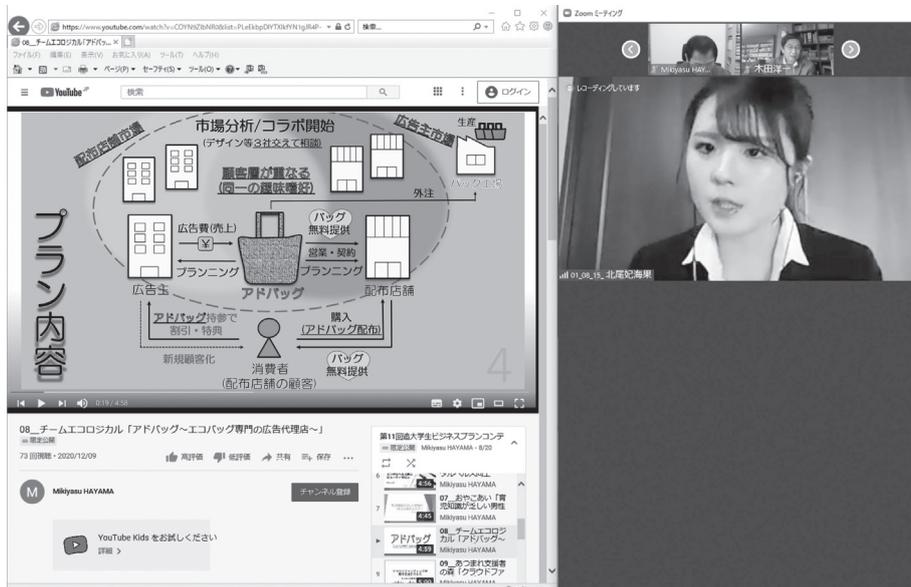
実は、私は春に開催されたグッズプランコンテストにも参加させていただいていました。しかし、グッズプランコンテストでは残念ながら賞をいただくことが出来ませんでした。自分自身、その時にすごく悔しかったですし、精一杯取り組んだのかどうかを自問しました。そして、全力で取り組まなかったことに、深く反省いたしました。そこで、秋に開催されるビジネスプランコンテストでは悔いの無いように行動しようと決め、精一杯取り組

組みました。

また、同じ時期に学外の「キャンパスベンチャーグランプリ2020」というコンテストにも参加させていただきました。そこでも、「中小企業基盤整備機構 近畿本部長賞」をいただくことが出来ました。今回の取り組みをこのような形で結実させることが出来、本当に嬉しく思います。一生懸命に取り組むことは、非常に素晴らしいことだとあらためて身に染みて感じました。

プレゼンテーションが完成するまでには、ベンチャービジネス研究所主催の「ビジネスプランコンテスト対策セミナー」に参加し、より良いプレゼンテーションの作り方などを教えていただきました。また、何度もご指摘いただき、ブラッシュアップを重ねました。自分一人の力ではなく、たくさんの方々の協力の下でこのような結果を出すことが出来ました。ご指導下さった先生方やチームのメンバー並びに関係者の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今回の達成感や喜びを糧に、今後も努力することを忘れず何事にも精一杯取り組んでいきたいと思っております。

最後に、私たちが発表した「アドバッグ ～エコバッグ専門の広告代理店～」は、海洋汚染問題にフォーカスしたビジネスプランでしたが、この課題は私個人ではなく多くの人が向き合えば改善が難しいと考えています。そのため、一人一人が身近なところから取り組み、少しでも海洋生物や地球への負担が減ることを強く望んでいます。



## ほくせつ探検大学活動報告

経営学部 宮崎 崇将 (ベンチャービジネス研究所所員)

ほくせつ探検大学は、北摂地域の活性化を目的に北おおさか信用金庫と株式会社サイネックスと提携し、主に情報発信などに取り組むプロジェクトです。

日常的な取り組みとして北摂地域の店舗やスポットを取材し、SNS (Instagramなど)、リーフレット、ラジオなどの媒体を通して紹介しています。しかし、今年度上半期は新型コロナウイルス対策として大学が授業を全面オンライン化、課外活動禁止といった処置をとったため、新たに店舗の取材などを行うことはできませんでした。そのような中で、Exprocityの観覧車運営会社オオサカホイールとコラボ企画を進めるために定期的にオンラインでミーティングを行い、企画を準備しました。新規に取材に行けないためInstagramでは過去に取材した店舗などを再度紹介したりしていました。

8月以降は通常の活動に戻り、取材などを再開しまし

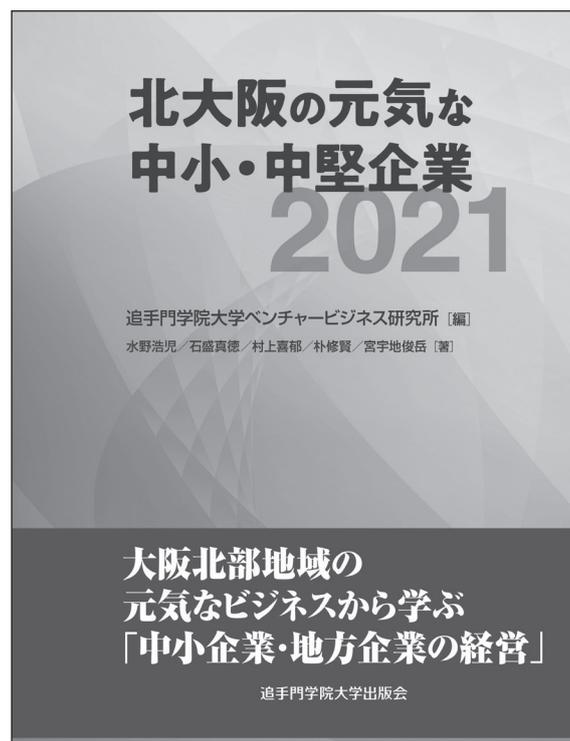
た。また、担当者が水野浩児教授から宮崎崇将准教授へと交代しました。11月2日～30日に観覧車コラボ企画「みる！きく！楽しむ！オオサカスカイランド」と名付け、北摂7市3町と追手門学院大学、北おおさか信用金庫を合わせた12のキャラクターで人気投票を行う「北摂キャラクター総選挙」などのイベントを実施しました。

12月から北おおさか信用金庫が開設したサイト「北摂マッチングモール」で「北摂食マッチング」というコーナーをいただき、そこに学生が取材した飲食店の情報(文章・写真・動画)を投稿しています。

12月17日には北おおさか信用金庫主催の北摂広域市町村産業振興連絡会議で、大門愛季君、阪東竜也君、中西七望さんがExprocity観覧車コラボ企画などほくせつ探検大学の活動に関する報告を行いました。



本学出版会より『北大阪の元気な中小・中堅企業2021』を出版いたしました。



## 『北大阪の元気な中小・中堅企業2021』

### 〈目次〉

#### 発刊の辞

村上 喜郁 (追手門学院大学経営学部 教授)

はじめに 元気企業調査プロジェクトの概要について

水野 浩児 (追手門学院大学経営学部長 教授)

〈第1部 北大阪の中小・中堅企業をめぐる論点〉

1章 令和の中小企業の現状と事業性評価に基づく融資への意識強化

水野 浩児 (追手門学院大学経営学部長 教授)

2章 中小企業の起業、展開、および事業承継

石盛 真徳 (追手門学院大学経営学部 教授)

3章 中小企業の新規事業進出

村上 喜郁 (追手門学院大学経営学部 教授)

4章 中小企業の技術力とマーケティング

—中小企業の技術力をどうマーケティングするのかについて—

朴 修賢 (追手門学院大学経営学部 教授)

5章 中小企業経営とキャッシュ・サイクル

—中小企業の自立した経営に必要な会計のポイントについて—

宮宇地 俊岳 (追手門学院大学経営学部 准教授)

〈第2部 北大阪の元気企業の事例報告〉

7事例の紹介

石盛 真盛 (追手門学院大学経営学部 教授)

1章 中小企業における親族外の事業承継：ジャパン・コンサルティング・アンド・テクニカル・サービス

石盛 真徳 (追手門学院大学経営学部 教授)

2章 1990年代における製造業の創業と事業展：大徳工業(株)

石盛 真徳 (追手門学院大学経営学部 教授)

3章 中小企業の技術特化とニッチ市場開発：近畿刃物工業(株)

朴 修賢 (追手門学院大学経営学部 教授)

4章 地元中小企業の世界市場開拓：(有)美乃幸

朴 修賢 (追手門学院大学経営学部 教授)

5章 強靱なキャッシュ・サイクルと企業の信頼獲得：(株)ダイフジ

宮宇地 俊岳 (追手門学院大学経営学部 准教授)

6章 個人の技術を最大限に生かしたマイクロビジネス：しょうへいの焼売

村上 喜郁 (追手門学院大学経営学部 教授)

7章 フィリピンでの事業を契機とした創発的多角化：南方物産(株)

村上 喜郁 (追手門学院大学経営学部 教授)

執筆者一覧

### 〈内容紹介〉

中小・中堅企業が抱える事業性評価、事業再生、および事業承継といった経営上の多様な問題について、経営、会計、マーケティング等の多様な学問領域の観点から論点整理を行い、どのような取り組みが有効かを理論的に考察するとともに、北大阪地域の企業を対象にしたケーススタディから実践的に検討します。

2020年度ベンチャービジネス研究所 所長・所員・研究員・顧問一覧

| 役職 | 氏名    | 所属等        |
|----|-------|------------|
| 所長 | 村上 喜郁 | 経営学部教授     |
| 所員 | 池田 信寛 | 経営学部教授     |
| 所員 | 石盛 真徳 | 経営学部教授     |
| 所員 | 稲葉 哲  | 地域創造学部専任講師 |
| 所員 | 井上 秀一 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 岡崎 利美 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 佐藤 敦信 | 地域創造学部准教授  |
| 所員 | 朽尾 安伸 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 長岡 千賀 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 朴 修賢  | 経営学部教授     |
| 所員 | 葉山 幹恭 | 地域創造学部専任講師 |
| 所員 | 水野 浩児 | 経営学部教授     |
| 所員 | 宮宇地俊岳 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 宮崎 崇将 | 経営学部准教授    |
| 所員 | 八木 俊輔 | 経営学部教授     |

| 役職  | 氏名    | 所属等  |
|-----|-------|--|
| 所員  | 山下 克之 | 経営学部教授   |
| 所員  | 安本 宗春 | 地域創造学部専任講師   |
| 所員  | 李 建   | 経営学部教授   |
| 研究員 | 金川 智恵 | 経営学部教授   |
| 研究員 | 中野 統英 | 経営学部准教授  |
| 研究員 | 梶原 晃  | 久留米大学文学部教授   |
| 研究員 | 田淵 正信 | 客員教授・公認会計士・税理士                                     |
| 研究員 | 村田 崇暢 | 経営学部非常勤講師  |
| 顧問  | 金森喜久男 | 一般社団法人 情報セキュリティ・リスクマネジメント関西研究所代表理事<br>パナソニック株式会社客員 |
| 顧問  | 木田 洋一 | 一般社団法人 広報支援機構理事<br>岩井コスモ証券監査役                      |
| 顧問  | 合田 順一 | 茨木商工会議所会頭  |
| 顧問  | 寺本 博美 | 三重中京大学名誉教授   |
| 顧問  | 西岡 健夫 | 追手門学院大学名誉教授  |

2020.2.1現在

① 所員・研究員の募集（教員）

ベンチャービジネス研究所の活動にご参加いただける教員（所員・研究員）を募集しております。ベンチャービジネスや事業承継についての調査研究活動・出版等の事業を実施しています。入所希望の方は事務局までご連絡ください。

② 学生研究員の募集

ベンチャービジネス研究所主催の企画や事業にご参加いただける学生研究員を募集しております。

- ・ビジネスプランの企画やプレゼンテーションなどについて学ぶ研究会
- ・動画やSNSなどで北摂地域の魅力を発信する産学連携プロジェクト
- ・アイデアグッズやビジネスプランのコンテスト

その他さまざまなイベントを実施しています。

ベンチャービジネス、地域貢献などに興味のある方はぜひご参加ください。先生方からも学生にお声かけください。

Newsletter vol.23

■ 編集・発行 2021年3月31日印刷  
2021年3月31日発行

■ 編集代表者 村上 喜郁

■ 印刷所 川西軽印刷株式会社

■ 発行所 追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所  
〒567-8502 茨木市西安威2-1-15  
TEL/072(641)7374 FAX/072(643)9597  
E-mail: ventureb@otemon.ac.jp  
http://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/